

本書の掲載内容に下記の誤りがございました。ここに訂正させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。

訂正箇所	誤	正
P.22 問題5	(2) 第2類の危険物は、 いずれも比重は1より大きく 、酸化剤との接触または混合により発火、爆発するおそれがある。	(2) 第2類の危険物は、 比重が1より大きいものが多く 、酸化剤との接触または混合により発火、爆発するおそれがある。
P.41 (1)	(1) 塩素酸 (HClO_4) . . .	(1) 塩素酸 (HClO_3) . . .
P.47 問題3 解説	B なお、漂白剤のほか、両者とも 花火やマッチ等の原料にもなっています 。	B 誤り。塩素酸カリウムのみが該当します。
P.47 問題3 解説の最下行	従って、正しいのは、 B, C, D の3つ になります。	従って、正しいのは、C, D の 2つ になります。
P.48 下蘭 問題3の 解答	(3)	(2)
P.55 問題17 選択肢 B	酸と接触すると、 酸素 を発生し分解する。	酸と接触すると、 過酸化水素 を発生し分解する。
P.56 問題18 (2)	. . .少量の二酸化 炭素 を発生する . . .	. . .少量の二酸化 塩素 を発生する . . .
P.86 問題15 解説	…可能なのは、 硫化リン と引火性固体です。従って、 A と E の2つ が正解です。	…可能なのは、引火性固体です。従って、E の 1つ が正解です。
P.88 表 ①硫化リン 消火	砂 粉末 CO_2	砂 粉末
P.89 最下行	… (または粉末消火剤か 二酸化炭素消火剤) で消火する。	… (または粉末消火剤) で消火する。
P.98 問題8 (4)	二酸化炭素消火剤を放射する。	膨張ひる石で覆う。
P.114 問題39 (2)	. . . 塗料用石灰 等を . . .	. . . 可塑剤 等を . . .
P.175 問題54 C	炭化カルシウム 粉末消火剤	炭化カルシウム 粉末消火剤(炭酸水素塩類)
P.177 下から4行目 ②	消火粉末剤が有効なもの：	消火粉末剤(炭酸水素塩類)が有効なもの：
P.198 (1) ピクリン酸	3. 水には溶けないが、熱湯やアルコール、ジエチルエーテルに溶ける。	3. 水や熱湯、アルコール、ジエチルエーテルに溶ける。
P.202 下から3行目	このペアになっていない 原子 (不対電子)	このペアになっていない 電子 (不対電子)
P.234 問題60 解説	ほとんどの第5類危険物は水には溶けませんが、B の	ほとんどの第5類危険物は水には溶けませんが、 A のピクリン酸 , B の
P.235 問題60 解答	(3)	(4)
P.252 五フッ化ヨウ素の比重	2.30	3.20
P.254 1行目	3. . . . 石油、ベンジンなどには溶けない。	3. . . . 石油、ベン ゼン などには溶けない。
P.259 問題7	二酸化炭素から木片までの4つの物質と リン化水素 は、いずれも 可燃物 であり、過塩素酸	

解説を右のように変更します。	と接触すると、発火または爆発する危険性があります。従って、発火または爆発する危険性のないものは残りの <u>希硫酸</u> と二酸化炭素の 2 つになります。	
P.260 問題7 解答	(3)	(2)
P.267 問題21 解説 下から4行目	るときは自身が <u>還元</u> されて酸素を発生します。	るときは自身が 酸化 されて酸素を発生します。

よって、問題集の86ページ、問題15の解説の「硫化リンと引火性固体」を「引火性固体」に訂正し、その後の「AとEの2つが正解です」を「Eの1つが正解です」に、また、87ページ下の問題15の解答を(1)に訂正させていただきます。

次に、88ページの表における硫化リンの消火の欄からCO₂を削除させていただきます。また、89ページの最下行にあるカッコ内からも二酸化炭素を削除させていただきます。

また、ご指摘の98ページ、問題8の(4)につきましては、「二酸化炭素消火剤を放射する」を「膨張ひる石で覆う」に訂正させていただきますと思います。